

進路に関わる情報を、少しずつ分かりやすく説明します

今回のテーマ

高等部現場実習について



- 高等部では年間2回の現場実習期間（6月、9月、各10日間）があります。
- 高等部1年生段階は、基本的には校内実習になります。
- 高等部2年生からは、基本的には校外実習になります。
- 進路希望調査（7月、2月）を基に、学校と保護者間で相談をしながら実習先候補を選定し、学校（進路担当）より実習依頼をかけていきます。

〈校内実習について〉

- 高等部1年生段階は基本的には校内実習になります。
- 現場実習期間（6月、9月）に校内で企業からの受注作業に取り組みます。
- 実習を通して「働く上での基礎的な力」「体力」「働くためのルール」などを学びます。
- 「おもちゃ工場」（主に生活コース）、「木札工場」（主に社会コース）で作業します。
- 「おもちゃ工場」は、橋本産業様からの受注作業で、パズルなどの玩具の袋詰めなどの作業に取り組みます。



- 「木札工場」は、山名酒造様からの受注作業で、木札（焼杉板）作り作業に取り組みます。



〈校外実習について〉

- ・現場実習期間（6月、9月）に企業や福祉事業所で実習をします。
- ・生徒の実態に応じて、1日～3日、1週間、2週間などと実習期間を調整します。
- ・進路希望調査（7月、2月）を基に学校、生徒、保護者間で相談をしながら実習先を選定し、進路担当より依頼をかけていきます。
- ・「本人、保護者の希望」「実態に合っているか」「ずっと続けていけるか」など、総合的に判断しながら進路先を決定していきます。

（高等部1年生）

- ・卒業後一般就労、就労継続支援A型事業所を希望する場合は後期（実習期間外）に3日程度、福祉事業所での実習を経験します。

（高等部2、3年生）

- ・基本的には校外実習になります。スモールステップで段階的に経験を積み重ねていきます。
- ・高等部2年生段階では、就労適性を見極める体験的な実習を行います。
- ・高等部3年生段階では、進路先として受け入れの可能性のある事業所や企業での実習を行います。本人と実習先、双方の合意が得られた場合、進路先としてつなげていきます。

〈働くために必要な力について〉

- ・就労準備性ピラミッドの図にあるように、土台になる「健康管理」「日常生活管理」が大切になります。毎日元気に過ごせること、早寝早起き、時間管理、身だしなみなどができて、初めて働くことが出来ます。その上に、「対人技能（あいさつ、返事）」「基本的労働週間（礼儀、マナー、報告・連絡・相談）」、一番上に「職業適性（その仕事ができるか）」になります。
- ・現場実習、校内実習では、体験を通して働くために必要な力について、学習していきます。

